

学校自己評価表

学校法人セムイ学園 東海医療工学専門学校

評価対象期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

目 次

基準1	教育理念・目的・育成人材像等	1	基準7	学生の募集と受け入れ	7
基準2	学校運営	2	基準8	財務	8
基準3	教育活動	3	基準9	法令等の遵守	9
基準4	学修成果	4	基準10	社会貢献	11
基準5	学生支援	6			
基準6	教育環境	7			

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目及び現状認識・評価等

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
1-1	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められ、実現するための具体的な計画・方法を持っているか	4	<p>《教育理念》 人のいのちを守り、社会に貢献したいという強い信念を育てる</p> <p>《育成人材像》</p> <p>① 全国の公的組織（消防・警察・海上保安庁・自衛隊）に求められる優秀な救急救命士</p> <p>② 救急救命士として必要な知識と技術を学ぶ上で必要となる、言葉や表現、社会に関する基礎的学力を有する者</p> <p>なお教育計画をシラバスで反映し、一般目標(GIO)および到達目標(SBOs)を明確化し、補習などによって目標到達を心掛けている。</p>
1-2	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	<p>「東海医療工学専門学校 救急救命科における「3つのポリシー（案）」における「カリキュラムポリシー」で教育課程編成・実施の方針を定めている。</p> <p>《教育方針》 救急救命士は病院前救護活動に従事するのに際し、自らの社会的役割を認識しつつ、傷病者に対して適切に対応できるよう、基本的な能力を身につけること。</p>
1-3	理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	3	<p>東海医療工学専門学校ホームページおよびパンフレット、(定期的な)ブログなどで社会的な普及啓発を図っている。</p> <p>また教員同士で最新情報（知識・技術）の更新を心掛けている。</p>
[評価] ※ 4:適切 3:ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切			

基準2 学校運営

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
2-1	人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3	整備されている。就業規則、諸規定は、学内サーバーの共有フォルダに保存されており、教職員が閲覧可能となっている。
2-2	学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められており、学校は事業計画に沿って運営されているか	3	事業計画については、各校及び法人本部で作成し、評議員会及び理事会で意思決定されている。10月に事業計画の中間報告を行い、事業計画の進捗状況などについて報告と協議を行っている。
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	法人全体の重要事項については、理事会・評議員会において意思決定を行っている。課題への対応策に関する事項、目標管理の進捗状況に関する事項については、運営会議を開催して協議している。 また、毎月経営会議を開催し、学校経営に係る事項や不定期に発生する重要事項について、意思決定がなされている。
2-4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動等の情報公開については、文部科学省の定めるガイドラインに基づき、学園のホームページにおいて情報公開に取り組んでいる。
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	サイボウズofficeを導入し、情報の可視化と共有、業務の効率化を図っている
[評価] ※ 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

- ・セムイ学園ホームページ <http://www.tokai-med.ac.jp>
- ・H30年度 セムイ学園 事業計画

基準3 教育活動

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
3-1	教育目標・育成人材像は明確になっているか	4	指定規則、指導要領、救急救命士教育施設協議会の教育方針に準じ、「東海医療工学専門学校 救急救命科における「3つのポリシー」(案)」を作成し、「救急救命士教育は病院前救護活動に従事するのに際し、自らの社会的役割を認識しつつ、傷病者に対して適切に対応できるよう、基本的な能力を身につけた人材の育成を目指している。」と育成人材に関しても明確化している。
3-2	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	平成29年度より職業実践教育課程認定校となる。愛知医科大学病院などの多方面にわたる外部関係者による評価を伺い、救急救命士における「職業教育」のあり方について日々研鑽している。
3-3	教育課程は、適切に編成されているか(体系性)	4	知識分野においては1年次に基礎医学教育、2年次に応用医学教育を論理的思考に基づいてカリキュラムを編成している。 スキル分野においてはシミュレーション教育を通して1年次に模写行動による反復トレーニングで基礎技術の向上を図り、2年次に救急現場における判断能力の向上を図るために日本臨床救急医学会「PEMEC」などを導入している。
3-4	各科目はカリキュラムの中で適切な位置付けをされているか	3	厚生労働省指定カリキュラムに準じ、適切と考えられる科目を教授している。
3-5	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	「東海医療工学専門学校 救急救命科における「3つのポリシー」(案)」における「カリキュラムポリシー」で成績評価・単位認定の方針を定めている。担当講師の評価を基本とし、進級判定会議・卒業判定会議で厳格、公正に判断している。
3-6	進級、卒業の基準は明確になっているか		上記同様。

3-7	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	3	<p>例年1回救急救命士教育施設協議会主催の教員研修会に参加し研修している。</p> <p>昨年度は一般社団法人 病院前救護統括体制認定機構による「民間救急救命士認定・更新制度講習」を受講し、救命士の職域拡大に関連する知識を教育として還元している。</p> <p>また病院前産科救護活動(BLSO)におけるプロバイダー資格取得を果たし、分娩介助および新生児蘇生におけるシミュレーション教育に還元している。可能な限りではあるがスキルアップセミナーへの参加を奨励している。</p>
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	各科目において学生(受講生)からの講義内容に関するアンケートを実施・集計し、担当講師へフィードバックしている。
3-9	授業評価が授業改善に活かされているか	3	定期的な教務会議及び講師会議、教育編成会議などを行い、授業評価を考慮した授業改善に努めている。
3-10	国家試験等の指導体制は確立されているか	4	<p>指定規則、指導要領、救急救命士教育施設協議会の教育方針に準じ、明確化している。</p> <p>なお本校オリジナルの国家試験対策講義および模擬試験を定期的に行い、成績低迷者に対する放課後補習、土曜日補習などの知識の充実が個々に応じて学べるように構築されている。</p>
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切			

根拠となる規定、資料等：

基準4 学修成果

(1) 点検項目

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
4-1	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	救命士の主な就職先は消防官、自衛官、海上保安官などであるが、就職に際して国家・地方公務員試験への合格が必須となる。そのため補習による教養分野の講義、面接指導を実施している。 また近年、救急救命士の職域拡大に応じた民間企業への就職を推奨し、資格の利活用を心掛けている。
4-2	中退率の低減が図られているか	3	常に学科教員、職員が会議によって、学生個々の状況を把握しており、状況に応じた対応を心掛けている。 昨年度は中退者4名であり、中退率は8.2%であり、内訳として2名が消防官採用試験に合格し、自主退学となる。 成績低迷者であっても個別性のある学生教育を行い、現在、学力低迷による自主退学は認められていない。
4-3	国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか	4	国家試験の難易度は年々上昇し、必修問題も高度化しており、対応に苦慮している。 1年次からの定期的な補習、個別対応を行い、昨年度は全国平均91.7%をわずかに下回る91.4%であったが、入学生に対する国家試験の受験率は全国的にもトップクラスの成果を修めている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切			

根拠となる規定、資料等：文部科学省における「学生の中途退学や休学等の状況について」の資料

基準5 学生支援

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	就職サポートセンターを主体とした指導を図り、公務員試験に対応するための一般教養分野の補習講義を定期的実施している。また消防機関以外の就職先に関する情報の公開を積極的に行い、救急救命士資格の利活用を心掛けている。
5-2	父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合)	4	年1回の保護者会を実施し、個別面談などを行うことによって学習状況を伝えている。 また進級段階、卒業段階、自主退学段階で保護者に連絡するのではなく、事前に保護者とともに改善へ導く試案を状況報告とともに電話連絡を行っている。 学内の状況をブログなどで定期的に更新し、学生教育の実態を伝えている。
5-3	卒業生への支援体制はあるか	4	卒業後の就職支援はインターネット上における情報公開、国家試験は通信教育及び聴講生制度による不合格者への対応を行っている。 なお聴講生制度を活用した卒業生の国家試験合格率は極めて良い成果を修めている。
5-4	学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか	4	問題点が明確化した段階で個別面談を行い、定期的な教務会議で教員同士による情報共有に努めている。 情報共有後は問題点に対する対処を補習や個別面談などで実行しているが、基本的にマンパワー不足を感じる。
[評価]	4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切		

基準6 教育環境

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
6-1	設備、機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p>修繕依頼、教育機器、機材購入要望書に基づいて、修繕、購入検討を行い、適宜新規の機具機材を購入し整備している。</p> <p>2019年度に空調機の更新をする予定である。</p>
6-2	防災に対する体制は整備されているか	3	<p>教職員および学生への防災意識を高め、南海トラフなどの大規模災害時に対応できるように2019年2月6日に例年実施している避難訓練を行った。</p> <p>またLINEなどの通信ツールを用いて定期的に訓練を実施し、円滑的な情報共有ができるように心掛けている。</p> <p>防災備蓄品は昨年度に引き続き購入をし、備蓄品の充実を図っていく。</p>
<p>[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切</p>			

基準7 受け入れ募集

番号	点検項目	評価	点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか	4	グループ校を含め過去3年間に入学実績のある高等学校を中心に280校を指定校とし、指定校推薦入試の案内を行うとともに在校生の状況、卒業生の進路等の報告を行った。 また、資料請求などのあった入学実績のない高等学校へも随時訪問し情報提供を行っている。
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4	時代のニーズに沿った多様な入学試験を実施している。 ① A0入試は書類審査（エントリーシート）と個人面接により判定を行っている。 ② 学校推薦入試、指定校推薦入試、社会人入試、一般入試においては小論文の採点基準を設け明確化し、判定している。また、一般入試の学力試験は科目の選択が可能になっている。 入学試験の合否決済については、学科長より校長へ決裁書の申請を行っている。
7-3	学生募集において資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	国家試験合格率、就職（内定）率などの情報はホームページやパンフレット等で情報提供を行っている。
7-4	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	近郊の競合校と比較して低い設定になっている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

上記点検項目の根拠となるもの

- ・平成30年度情報提供実施高等学校一覧
- ・学校案内、サポートブック、募集要項
- ・ホームページ

基準8 財務

点検項目及び現状認識・評価等

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3	経費削減に取り組み、単年度黒字化を実現し中長期的に財務基盤の安定化を目指している。平成30年度は単年度、黒字化である。学園の将来を考え、財務的な観点から中長期計画を策定し、将来への指針と成るべく資料を作成することを心掛ける。
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものか	3	予算計画は法人本部にて調整し評議委員会、理事会にて承認され執行している。期中に執行状況を関連部に公開し経営層には学校学科ごとの収支状況の開示を実施する。
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による監査をほぼ毎月受け、適切な会計に努めている。会計監査については、法人本部の所管で公認会計士による外部監査及び監事による財務監査を実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。会計監査の往査は、平成30年度延べ20日実施した。
[評価] ④:適切 3: ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

- ・平成30年度 事業活動収支計算書

基準9 法令等の遵守

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	養成施設自己点検表に基づき点検し、改善をしている。内部監査は本校職員の監査員4名と行政書士1名（学外者）で、6月と11月に教学に関する事項を重点的に行った。監査結果は理事会、学内会議で報告し、学内で問題点の共有、対応策を協議共有し、コンプライアンスの徹底を図っている。
9-2	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	建学の理念・目的、教育および管理・運営内容の全般について、自己点検・評価を実施し、改善を図っている。
9-3	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	個人情報保護の基本方針として、情報セキュリティポリシーを定め、情報セキュリティを確保している。 個人データにアクセスする必要のある限られた人のみアクセスできる環境にし、誰がアクセスしたかを追跡できるようにログを残している。また、アクセスに必要なパスワードは、定期的に変更を行っている。
[評価] 4:適切 3:ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切			

根拠資料

・H30年度 事業報告書

基準10 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価	評価項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	日本救急医療財団、救急救命士教育施設協議会（J E S A）における救急救命士模擬試験問題の作成や教育資源の提供に協力し、救命士学生教育への社会貢献活動を行っている。 また一般企業や教育機関における心肺蘇生法の普及啓発やファーストエイド講習会による講習会を積極的に受入れている。
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	いびがわマラソンなどの競技活動時における救護支援や消防機関・医療機関で行われている広域災害訓練などで傷病者ボランティアとして積極的に参加支援している。
[評価]	4:適切 3: ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切		